

記事

[Megumi Kakechi](#) · 2021年3月2日 2m read

\$ZF(-100) で実行したコマンドの出力を取得する方法

これは [InterSystems FAQ サイト](#) の記事です。

記事後半に、「2>&1」で標準エラー出力(2)を標準出力(1)にリダイレクトする方法を追記しました。

\$ZF(-100) では実行したコマンドの出力を取得することはできませんが、代わりにコマンド・パイプデバイスを使用する方法があります。

詳細は、以下ドキュメントをご参照ください。

[コマンド・パイプ デバイスを使用する方法について](#)

こちらを %File クラスで使用した例が以下になります。

```
USER>kill
```

```
USER>set cmd=##class(%File).%New("netstat -anp tcp")
```

```
USER>write cmd.Open("rq")
```

```
1
```

```
USER>while 'cmd.AtEnd { write !,cmd.ReadLine() }
```

アクティブな接続

プロトコル ローカル アドレス 外部アドレス 状態

```
TCP 0.0.0.0:23 0.0.0.0:0 LISTENING
```

```
TCP 0.0.0.0:80 0.0.0.0:0 LISTENING
```

(中略)

```
TCP 192.168.172.1:139 0.0.0.0:0 LISTENING
```

```
USER>
```

注意

\$ZF(-1) および \$ZF(-2) には、セキュリティ上の脆弱性があり、その使用が推奨されておりません。

代替の機能として \$ZF(-100) が用意されておりますので、そちらをご使用ください。

\$ZF(-100) の詳細は、以下の関連トピックをご参照下さい。

[\\$ZF\(-100\) の戻り値に -1 が返って実行できません。なぜですか？](#)

[\\$ZF\(-100\) の使用方法を教えてください](#)

2023/7/20追記

以下の方法で、標準エラー出力(2)を標準出力(1)へリダイレクトし、さらにコマンドの標準出力をファイル(result.log)へ出力する方法が使用できます。

```
USER>Set st = $ZF(-100, "/shell", "net", "use", "\\server1\Public",  
"/user:name", "password", ">result.log", "2>&1")
```

\$ZF(-100) で実行したコマンドの出力を取得する方法

Published on InterSystems Developer Community (<https://community.intersystems.com>)

```
USER>write st      // ?????0????????????????????????????????
2
```

上記コマンドの場合、実行したネームスペースのデフォルトデータベースのフォルダに result.log が出力されます。

例えば、内容は以下のような標準出力が記録されます。

```
/* result.log */
```

システム エラー 1219 が発生しました。

同じユーザーによる、サーバーまたは共有リソースへの複数のユーザー名での複数の接続は許可されません。サーバーまたは共有リソースへの以前の接続をすべて切断してから、再試行してください。

[#ObjectScript](#) [#ヒントとコツ](#) [#Caché](#) [#Ensemble](#) [#InterSystems IRIS](#) [#InterSystems IRIS for Health](#)

ソースURL:

<https://jp.community.intersystems.com/post/zf-100-%E3%81%A7%E5%AE%9F%E8%A1%8C%E3%81%97%E3%81%9F%E3%82%B3%E3%83%9E%E3%83%B3%E3%83%89%E3%81%AE%E5%87%BA%E5%8A%9B%E3%82%92%E5%8F%96%E5%BE%97%E3%81%99%E3%82%8B%E6%96%B9%E6%B3%95>